

# 十勝毎日新聞

2005年（平成17年）6月21日（火）

都市エリア産学官連携促進

## 推進委が初会合 研究概要など確認

都市エリア産学官連携促進事業推進委員会（座長・佐山晃司）の初会合が21日午前10時から、ホテルノースランド帯広で開かれ、同事業がスタートを切った。文部科学省が十勝圏域で採択した「機能性を重視した十勝農畜産物の高付加価値化に関する技術」の推進に



推進委初会合で、事業概要を確認する佐山晃司座長（中央）ら

向けて、体制や事業目標、研究概要などを確認した。今後、十勝特有の技術を使った新産業創出を進めていく。

各関係機関から約70人が出席。十勝圏振興機構の藤村敏則専務理事が「タイムリーな事業を力強く推進したい」とあいさつ。来賓の文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課地域科学技術振興室の田口康空長が「同事業は地域の将来、ビジョンとセットになる。持続的な産学官システムをつくり上げ、協働型イノベーション（技術革新）を期待したい」と話した。

会合では同推進委を研究内容報告の場と位置付け、帯広畜産大学がコア研究機関となる共同研究事業推進グループが具体的な研究を進めることを確認。同推進委内の研究ワーキンググループが研究の進捗よく状況を確認、事業ワーキンググループが事業化を図る。十勝では馬鈴薯（はれいしょ）の有効ペプチドの生産技術開発など5つのテーマで研究を進めていく。

（田島上幸）